

～都に鄙に、また山に～
郵便局を旅する地域活性マガジン

散歩人

SANPOJIN
1月号 vol.19

局長さんご推薦!

お取り寄せの逸品

全国産品プレゼント

(長崎・大分・佐賀・宮崎県)

わたしと手紙

斉藤 由貴さん

世界遺産の島と、

薩摩文化の懐深さ

鹿児島

contents

散歩人

vol.19 | Jan. 2013



〈特集〉

2 世界遺産の島と、薩摩文化の懐深さ 鹿児島

悠々たる大自然、伝統文化の重厚さ。

海の幸山の幸を盛り込んだ薩摩料理に舌鼓をうち、

湯治場として親しまれてきた温泉で時を忘れる。

歴史の節目に大きな足跡を残す鹿児島。縦断の旅に出ました。



江戸時代後期に薩摩藩が編集した『三国名勝図会』には「此地沙蒸を用ゆ、病客沙を穿て横に臥し、暖沙を覆ふて其の身を温む、諸病を治し、最筋骨の疼痛に効験あり」と、指宿の砂むし温泉が記されている。地熱に温められた砂に体を埋めると10分ほどで全身から汗がふき出す。波打ち際での砂浴は干潮時に体験できる。砂むし会館「砂楽」で。電話/0993-23-3900。入浴料900円(浴衣代込)

10 わたしと手紙 斉藤由貴さん

12 郵便局のあるまちをたずねて 熊本県苓北町、鹿児島県屋久島町

局長さんご推薦!

16 お取り寄せの逸品 全国産品プレゼント

(長崎・大分・佐賀・宮崎県)

18 灯のリレー～復興のバトン～

19 座右宝 より素敵に生きるために 石井晴夫さん

20 切手で訪ねるふるさとの旅

22 川柳「二匹目のどぜう」

24 読者のみなさんから／コラム「龍の鱗」

25 バンコク雑記帳／読者プレゼント

表紙：縄文杉(鹿児島県屋久島町)

裏表紙：白谷雲水峡(鹿児島県屋久島町)

白谷川上流に広がる。ハイライトは「苔むす森」。巨木も巨岩も緑の苔に覆われ、静寂が支配する世界

樹齢数千年の杉、
緑の濃淡に覆われた森

屋久島

森の中に生きる、樹齢数千年
の屋久杉を求めてゆく「縄文杉
トレッキング」、濃淡さまざま
な香むした森をめざす「白谷雲

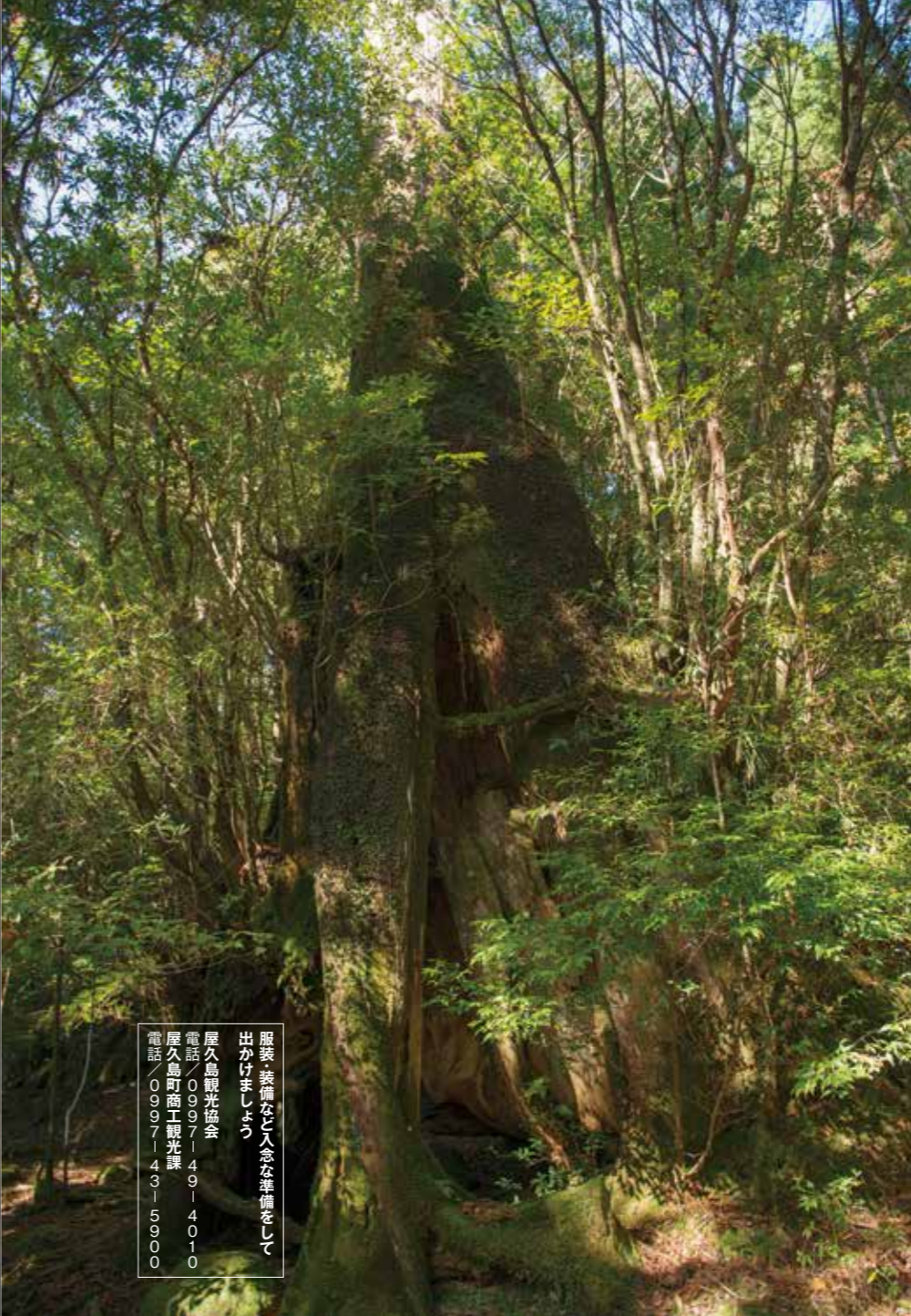
水峡」：。自然の息吹が身近に
感じられる屋久島には多くの
登山道があります。

一本の植物、一匹の虫が生態
系を維持していることを忘れ
ずに「動植物を大切に」「ゴミは
持ち帰る」などのマナーを守る
ことは島を訪れる全ての人の
ルールです。

「縄文杉」をめざして午前5時、荒川登山口を出発。荒川登山口までは3～11月一般車両の乗り入れはできない。渡邊太郎さん(先頭)にネイチャーガイドをお願いした



所要時間は往復10～11時間。最初のおよそ2時間半はトロピコ軌道をひたすら進む



服装・装備など入念な準備をして
出かけましょう
屋久島観光協会
電話/0997-49-4010
屋久島町商工観光課
電話/0997-43-5900

三代杉。倒木した初代の上に二代目が育ち、伐採された二代目の上に三代目が育つ



島内最大級の屋久杉「縄文杉」。推定樹齢2170年～7200年。スタートして5時間、急勾配の登山道を登りきると忽然と現れる



水面がエメラルドグリーンに輝く安房川。沿うように登山歩道は続く

荒川登山口から4時間ほど歩いてウィルソン株に到着。1914年アメリカの植物学者E・ウィルソン博士が洞窟と誤って雨宿りしたことから名づけられた。株内の空間はおよそ10畳ほどの広さ。中から仰ぐと切り口が緑輝くハートに見えるポイントがある



今回お世話になったガイドさんは
(株)山岳太郎 <http://www.sangakutaro.com/>
他にも
屋久島ガイド名鑑 <http://www.yakushima-eco.com/>



木のぬくもりに包まれて、落ち着く「サンカラスイート」の室内



自然の中に点在する13棟のヴィラ



スパはタイ伝統療法をとり入れた「アジアハーブアソシエーション」の日本第1号店。異国ムードあふれる空間でオーガニックハーブを用いた上質トリートメントを提供

眼下に太平洋を望むプール



楽園とも称される屋久島の自然に深くいだかれた極上のオーベルジュです。
約3万㎡の敷地にヴィラタイプやスイートなど29室、洗練されたアジアンモダンでテイストを統一。屋久島との共生を理念として地元食材にこだわるレストラン、薫り高いハーブに癒される高級スパをはじめ、プール、フィットネスルームなど施設も充実。
たゆたう光の中、海からの風を感じ、澄んだ空気に憩う——静謐で贅沢な時間が満ちています。

大自然にいだかれた楽園のオーベルジュ

サンカラ ホテル & スパ

sankara hotel & spa 屋久島



「安房・野村さんが作った原木椎茸のフラン カプチーノ仕立て」



上／森の中のキッチンにイメージした「オーカス」下／「屋久島原産・安納羊のモンブラン」久島志戸子産べにふうきのロイヤルミルクテイラー



「一湊沖・首折れ鱈 タルト仕立て、麦生・和田農園、柚子のアクセント」



悠久の時間が造り上げた島の素材への感謝の気持ちとともに、瀬下努総料理長が創りだすフレンチ。「屋久島産・伊勢海老のグリエとフリキャッセ ソースパルネーズ、クリュスタッセの薫り」

ところ／鹿児島県熊毛郡屋久島町麦生字萩野上553
電話／0997-47-3488
料金／25,000円～(1泊2食・1名様)
交通／屋久島空港から車で約30分、安房港から25分。屋久島空港・安房港へは送迎あり(要予約)
www.sankarahotel-spa.com





仙巖園から望む桜島の雄姿

ところ／鹿児島県鹿児島市吉野町9700-1
 電話／099-247-1551
 入園料／大人・高校生以上1,000円、小中学生500円、幼児無料
 交通／JR鹿児島中央駅から車で約20分

殿様専用の朱塗りの門「錦門」。日本に現存する唯一鍍金葺きの屋根が珍しい



宝石のような輝き、薩摩切子の冷酒グラス。26,250円(左)と29,400円

桜島を雄大な借景に

名勝 仙巖園

桜島を築山に、錦江湾を池に見立てた雄大な借景が見事な仙巖園。万治元年(1658)薩摩第19代当主島津光久により、島津家の別邸として作られました。
 ガス灯として使用された鶴灯籠、反射炉跡など幕末史を彷彿させる史跡。斉彬をはじめ近代化事業を推進した島津家の歴史と文化を紹介する「尚古集成館」、薩摩切子を展示・製造の見学もできる「磯工芸館」「薩摩切子工場」なども隣接しています。



鹿児島を代表する「西郷どん」西郷隆盛銅像。鹿児島市立美術館入口左手に立つ

豪快かつ上品な正調さつま料理

熊襲亭

「熊襲亭」は、郷土の伝統料理を味わえる正調さつま料理の老舗。

黒豚アバラ肉を味噌・焼酎などで煮込んだとんこつ、御飯一升と地酒一升とを押し寿司にして一昼夜寝かせた酒ずし。キビナゴの刺身、旬の白身魚を使ったアツアツのさつま揚げなど、豪快かつ上品な味わいは後をひく逸品ぞろいです。

ところ／鹿児島県鹿児島市東千石町6-10
 電話／099-222-6356
 営業時間／11:00～14:00 ナイターストップ、17:00～21:30 無休
 料金／昼コース1,500円、夜コース3,000円、10,000円
 交通／鹿児島市電天文館通から徒歩3分



4～5名様用の個室は5室。写真は「高千穂」の間

前列左から酒ずし、キビナゴの刺身、カツオ酒盗。二列目左から地鶏のたたき、さつま揚げ、さつま汁。三列目は焼豚・むかご・にがり・豚みそ、とんこつ。四列目ピナ貝の酢の物、黒豚しゃぶしゃぶ、芋ようかん。貴コース5,000円のメニュー。酒ずしは、その昔「男尊女卑が強い薩摩では、男性の前でお酒をたしなめなかった女性」が考案したなど由来に諸説ある





湯上りにくつろげる設えがある室内の専用風呂



見聞
妙泉
温泉

山が迫り天降(あもり)川沿いに建つ雅叙苑の朝は鶏の鳴声で始まる



お金で炊くごはんの味は格別。水屋で



地どりの刺身(手前右)、煮アゲなど、自家製の食材をふんだんに使った夕食はボリュームたっぷり

古くから湯治場として知られる妙見温泉の山あい。茅葺屋根の離れが点在し、ひなびた風情の「忘れの里 雅叙苑」には、のんびりとした時が流れています。

7棟の古民家を移築。客室は全部で10室。うち8室には趣きの異なる風呂が設けられ、囲炉裏が切られた和モダンな部屋

忘れの里 雅叙苑

茅葺屋根の離れで憩う

もあります。

自家製の無農薬野菜、鶏肉を主に用いた料理は味噌や醤油などの調味料もすべて手作りに感じられる滋味。夏から秋にかけての天然鮎は絶品です。囲炉裏を囲み、竹筒でふるまわれるカッポ焼耐も夕食後の楽しみ。



とことく、鹿児島県霧島市牧園町宿窪田
42300
電話/0995-1771-2114
料金/平日25,560円、土祝前日
27,450円。とち1泊2食
交通/JR隼人駅から車で約20分、鹿児島空港
港から車で約15分、シャトルタクシー
(2,000円の手配あり)
<http://bajoon.jp/>

